

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジンサンヨウオノダシリツヤマグチトウキョウリカダイガク 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学									
フリガナ大学の名称	サンヨウオノダシリツヤマグチトウキョウリカダイガクダイガクイン 山陽小野田市立山口東京理科大学大学院 (Graduate School of Sanyo-Onoda City University)									
大学本部の位置	山口県山陽小野田市大学通一丁目1番1号									
大学院及び研究科の目的	薬学研究科博士課程は、高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力、技能、及びその基礎となる豊かな学識を備え、研究者、技術者又は医療従事者として自立し世界的水準で活躍できる人材を育成し、特に薬学領域における科学・医療・技術の進展に寄与することを目的とする。									
新設専攻の目的	薬学専攻は、薬学領域における科学・医療・技術の進展に寄与するため、医療薬学、臨床薬学、有機化学、物理化学、生命科学、衛生化学、健康科学などの専門分野を、医療系薬学、基礎系薬学及び社会系薬学などの幅広い薬学領域並びに工学や医学、倫理学、人文社会科学など学際領域から展望し、複雑化・多様化する科学・医療・技術の諸問題を薬学の視点から探究し、時代の要請に豊かな発想で対応できる人材の養成を目的とする。									
新設研究科の概要	新研究科・専攻の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	薬学研究科 [Graduate School of Pharmaceutical Sciences] 薬学専攻 [Major in Pharmaceutical Sciences] 計	4年	5人	-	20人	博士(薬学) [Doctor of Philosophy in Pharmaceutical Sciences]	令和6年4月 第1年次	同上		
【基礎となる学部・学科】 薬学部薬学科										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設研究科の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	薬学研究科薬学専攻	講義	演習	実験・実習	計	32単位				
教員組織の概要	研究科の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	薬学研究科薬学専攻(博士課程)	16人 (16)	9人 (9)	0人 (0)	0人 (0)	25人 (25)	0人 (0)	0人 (0)	
		計	16人 (16)	9人 (9)	0人 (0)	0人 (0)	25人 (25)	0人 (0)	0人 (0)	
	既設	工学研究科工学専攻(博士前期課程)	4人 (4)	5人 (5)	6人 (6)	0人 (0)	15人 (15)	0人 (0)	0人 (0)	
		工学研究科工学専攻(博士後期課程)	12人 (12)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	0人 (0)	
計		16人 (16)	6人 (6)	6人 (6)	0人 (0)	28人 (28)	0人 (0)	0人 (0)		
合計		32人 (32)	15人 (15)	6人 (6)	0人 (0)	53人 (53)	0人 (0)	0人 (0)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		46人 (46)		8人 (8)		54人 (54)			
	技術職員		2人 (2)		0人 (0)		2人 (2)			
	図書館専門職員		2人 (2)		2人 (2)		4人 (4)			
	その他の職員		1人 (1)		8人 (8)		9人 (9)			
計		51人 (51)		18人 (18)		69人 (69)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校舎敷地	50,173 m ²	0 m ²	0 m ²	50,173 m ²					
	運動場用地	53,689 m ²	0 m ²	0 m ²	53,689 m ²					
	小 計	103,862 m ²	0 m ²	0 m ²	103,862 m ²					
	そ の 他	1,431 m ²	0 m ²	0 m ²	1,431 m ²					
	合 計	105,293 m ²	0 m ²	0 m ²	105,293 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		34,699m ² (30,279m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	34,699m ² (30,279m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	27 室	38 室	126 室	5 室 (補助職員 5 人)	0 室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		薬学研究科薬学専攻		25 室						
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	大学全体	62,635 [12,721] (62,635 [12,721])	2,590 [987] (2,590 [987])	2,485 [983] (2,485 [983])	509 (509)	1,037 (1,037)	0 (0)			
	計	62,635 [12,721] (62,635 [12,721])	2,590 [987] (2,590 [987])	2,485 [983] (2,485 [983])	509 (509)	1,037 (1,037)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		1,099.37 m ²	248 席		72,055 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		1,400.00 m ²	テニスコート4面							
経 費 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位で算出 不能なため、学部 との合計 大学全体 大学全体
		教員1人当り研究費等		1,144千円	674千円	674千円	674千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		1,100千円	2,000千円	3,000千円	4,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	— 千円	181千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	817.8千円	535.8千円	535.8千円	535.8千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入、資産運用収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	山陽小野田市立山口東京理科大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 充足率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	工学部								山口県山陽小野田 市大学通一丁目1番 1号	
	機械工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.08	平成21年度		
	電気工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.08	平成21年度		
	応用化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.06	平成7年度		
	薬学部									
薬学科	6	120	—	600	学士(薬学)	1.00	平成30年度			
工学研究科										
工学専攻 博士前期課程	2	15	—	30	修士(理学) 又は修士(工学)	1.30	平成11年度			
工学専攻 博士後期課程	3	3	—	9	博士(理学) 又は博士(工学)	0.33	平成15年度			
附属施設の概要		名 称 : 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部附属薬草園 目 的 : 薬学部における教育・研究の資料とする 所 在 地 : 薬草園(学内) 山口県山陽小野田市大学通一丁目1番1号 薬草園(学外) 山口県山陽小野田市高畑字西山根 江汐公園内 設置年月日 : 平成30年4月1日 規 模 : 薬草園(学内) 452.9 m ² 薬草園(学外) 3,000 m ²								

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
薬学研究科(薬学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	社会系薬学・倫理特論	1後	1			○			3						オムニバス・メディア
	医療薬学英語特論	1前	1			○			1						メディア
	山口県地域医療学特論	1後	2			○			2	2					オムニバス・メディア
	医療薬学系薬学特論	1前		2		○			2	1					オムニバス・メディア
	臨床薬学系薬学特論	2前		2		○			3						オムニバス・メディア
	実践臨床薬学特論・演習	2前		2		○			2	1					※演習・オムニバス
	有機化学系薬学特論	1前		2		○			2						オムニバス・メディア
	物理化学系薬学特論	2前		2		○			2	2					オムニバス・メディア
	生命科学系薬学特論	2前		2		○			2	3					オムニバス・メディア
	健康科学系薬学特論	1前		2		○			2	1					オムニバス・メディア
	医薬品品質保証特論	2後		2		○			1						メディア
	医療データサイエンス特論・演習	2前		2		○			1	1					※演習・オムニバス・メディア
小計(12科目)	—		4	18	0	—	—	16	9	0	0	0	0		
演習科目	薬学特別演習	1~4通	4				○		10	7					メディア
	小計(1科目)	—	4	0	0	—	—	10	7	0	0	0	0		
研究科目	薬学課題研究	1~4通	20					○	10	7					メディア
	小計(1科目)	—	20	0	0	—	—	10	7	0	0	0	0		
合計(14科目)		—	28	18	0	—	—	16	9	0	0	0	0		
学位又は称号		博士(薬学)			学位又は学科の分野			薬学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
①専門科目：必修科目4単位を含み合計8単位以上 ②演習科目：必修科目4単位 ③研究科目：必修科目20単位 ①、②、③の要件を満たし、合計32単位以上修得すること。 ※専門科目の選択科目のうち、「医療系薬学研究コース」及び「社会人実務薬学研究コース」は、医療薬学系薬学特論、臨床薬学系薬学特論、健康科学系薬学特論から2単位及び実践臨床薬学特論・演習、医薬品品質保証特論、医療データサイエンス特論・演習から2単位を選択必修とする。「基礎系薬学研究コース」及び「社会人創薬研究コース」は、有機化学系薬学特論、物理化学系薬学特論、生命科学系薬学特論から2単位及び医薬品品質保証特論、医療データサイエンス特論・演習から2単位を選択必修とする。「社会系薬学研究コース」及び「社会人医療社会学研究コース」は、健康科学系薬学特論、医薬品品質保証特論、医療データサイエンス特論・演習から4単位を選択必修とする。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
薬学部薬学研究科（薬学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	社会系薬学・倫理特論 (8コマ)	<p>薬学・医学倫理分野において求められる考え方や薬学・医学系の基礎研究、臨床研究を行うために必要な研究倫理、薬学・医療問題を考えるために必要な経済学の知識について講義を行う。また、薬学・医学倫理に関する最近のトピックスを提示し、そのトピックスに関して小グループディスカッションやプレゼンテーションを行い、それらを通して薬学・医学倫理に対する理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(⑤ 下川 昌文／2回) 医療経済学について講義を行う。</p> <p>(10 西本 新／3回) 終末期医療、脳死・臓器移植、基礎医学研究・創薬研究における医療薬学倫理について講義を行う。</p> <p>(14 百溪 江／3回) 医療薬学倫理総論、薬剤師が有しておくべき医療薬学倫理、先進医療と医療薬学倫理について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	医療薬学英語特論 (8コマ)	<p>本講義においては、薬学・医学系論文における英文作成及び構成法を学ぶ。論文内容を明示するKey Statementの作成を基礎として、Abstract、Introduction、Material/Method、Discussion/Conclusion各項に含むべき内容とその構成及び適切な引用文献の選択及び引用方法を網羅する。さらに、英文論文構成の基本となるAPA及びMLA Formatに準拠した英文小論文作成を通して具体的英文論文作成法の習得を目指す。</p>	
	山口県地域医療学特論 (16コマ)	<p>地域医療における多職種教育は、地方の医療系大学教育の重要課題であり、学部教育のみならず、大学院等でも継続した臨床知識のインプット・アウトプットが必要である。特に、現代病である糖尿病、感染症、循環器疾患、がん及び精神疾患等の専門性・特殊性を理解する必要がある。地域の医療関連施設の中でチーム医療の一員として地域住民に信頼される薬剤師の育成が急務である。学会や研修会・講演会にも積極的に参加し、臨床で活躍している専門家等からの学術的・実践的な知識の取得を目指し、より臨床的な学問としての質を担保していく。</p> <p>(オムニバス方式／全16回)</p> <p>(③ 小野 浩重／4回) 糖尿病について講義を行う。</p> <p>(15 頼岡 克弘／4回) 感染制御について講義を行う。</p> <p>(⑥ 有海 秀人／4回) 循環器病並びにがん医療について講義を行う。</p> <p>(21 相良 英憲／4回) 山口県における地域別の主な疾病について講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
薬学部薬学研究科（薬学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	医療薬学系薬学特論 (15コマ)	<p>本特論では、薬理学、薬剤・製剤学、医薬品情報学の深い知識を習得し、創薬研究を遂行するために必要な専門的学力の向上を目指す。具体的には、1) 薬の安全性評価、新規治療標的の探索およびトランスレーショナルリサーチ、2) 薬物動態における個人差要因ならびに血中薬物濃度の評価方法、3) 新しい医療材料に適合したドラッグデリバリーシステムや製剤包装の開発などから創薬研究をめぐる最近の状況を講義する。さらに、医療現場における薬剤師の「医薬品リスク管理計画」、「審査報告書」の活用方法、アカデミア発革新的医薬品の実用化に必要な視点と政府の支援についての最新の話も講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 牛島 健太郎／8回) 生物薬剤学並びに生体リズムと医薬応用について、最新の医療薬学研究について講義を行う。</p> <p>(⑤ 下川 昌文／3回) レギュラトリーサイエンスについて講義を行う。</p> <p>(22 澁谷 典広／4回) 創薬研究について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	臨床薬学系薬学特論 (15コマ)	<p>病態発症機構の解明は、新薬の開発研究において必要不可欠なことである。本講義では、基礎生命科学に立脚した病態メカニズム解明に関する最新の知見を紹介するとともに、その治療薬の解明に関する最先端の論文を交えて講義する。薬の開発の歴史から現在臨床で使われている薬の最先端の知見を理解することで、治療薬の開発戦略を学ぶ。いくつかの最先端の論文を紹介し、皆様と議論しながら授業を実施する。必要に応じて、各分野の専門の先生に講義頂く予定である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 恵谷 誠司／5回) トランスポーター・チャンネルと疾患について講義を行う。</p> <p>(③ 小野 浩重／5回) 膵β細胞の発生分化メカニズム、インスリン分泌メカニズムについて、う蝕や歯周病などの口腔環境の悪化とアルツハイマー病、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病との関わりや予防について、インクレチンの基礎と臨床について、糖尿病と認知症との関連性について講義を行う。</p> <p>(11 細井 徹／5回) タンパク質の品質管理とその破綻による疾患発症のメカニズムについて講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
薬学部薬学研究科（薬学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実践臨床薬学特論・演習 (16コマ)	<p>本学の指定する施設において、重要疾患（感染症、心疾患、脳血管障害、精神疾患および免疫疾患）などの薬剤管理指導や臨床試験関連の演習を行い、多様な医療チームにおける薬剤師の役割と重要性を学ぶとともに、臨床症例をテーマとしたスモール・グループディスカッション（SGD）による症例検討、発表会を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全16回）</p> <p>③ 小野 浩重／6回 脳血管障害についての薬物療法上の問題点の解決並びに精神・神経疾患についての薬物療法上の問題点の解決について講義する。</p> <p>⑤ 頼岡 克弘／5回 免疫・アレルギー疾患についての薬物療法上の問題点の解決、病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法並びに医療チームにおける薬剤師の役割と重要性について講義する。</p> <p>⑥ 有海 秀人／5回 薬物療法に必要な情報の収集法・評価・加工について、地域住民に関する情報共有について並びに心疾患についての薬物療法上の問題点の解決について講義をする。</p>	オムニバス方式 講義 16時間 演習 16時間
	有機化学系薬学特論 (15コマ)	<p>本講義では、薬学の基礎的知識を習得している受講生が、薬学における有機化学の役割をより専門的視点から捉えその知識を習得することで、より高度な専門性や研究能力を有す薬学人を育成することを目的とする。即ち、当該分野の専門研究分野の一部である、1) 活性酸素や一酸化窒素に関する化学と創薬への展開、2) 現在の創薬に欠かせない様々な有機金属反応及び触媒反応（金属触媒、有機分子触媒）、の2つのトピックに焦点を絞り学習する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>① 稲見 圭子／7回 生体内小分子（活性酸素種・活性窒素種）について並びに日本人におけるがんの原因について講義する。</p> <p>⑫ 松永 浩文／8回 有機典型元素化学、有機遷移金属化学、有機分子触媒について講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
薬学部薬学研究科（薬学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	物理化学系薬学特論 (15コマ)	<p>生命現象を解き明かす上で、様々な高分子・低分子の性質・量を明らかにすることは重要であり、物理・分析化学的手法は有効な手段となる。以下の2つの視点に基づき講義を行う。[1] 生体分子の姿・形を立体的、動的に捉えることは、薬剤の機能や疾患メカニズムの合理的な理解に繋がるため、蛋白質等の立体構造・機能・解析法について生物物理化学の観点から講義する。[2] 生体試料中の微量低分子を複雑なマトリクスから分離し、定量する技術に関して、医薬品類の高感度分析法を例に講義する。さらに最新の研究成果や知見についても解説し紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 宮本 和英／4回) 生物物理化学・構造生命科学並びに生体分子について講義する。</p> <p>(16 和田 光弘／5回) 高感度分析における試料の前処理、医薬品類および生体成分測定における分析法バリデーション並びに高感度定量法について講義する。</p> <p>(9 田所 高志／4回) 生体分子の立体構造と機能について講義する。</p> <p>(10 武藤 純平／2回) 分析科学関連論文の評価について講義する。</p>	オムニバス方式
	生命科学系薬学特論 (15コマ)	<p>生命科学系の研究分野の進展は著しく、実験・解析技術の進歩にともなって、新たな生命現象とメカニズムの発見が日々更新され、疾患のメカニズム解明や治療への応用に発展しています。生命科学薬学特論では、病態生化学、再生医療学、生体防御学を含む医学・生命科学分野の最新の知見を紹介し、技術の進歩に裏打ちされた新しい知見を、疾患や治療に関連付けて学びます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 嶋本 顕／3回) 多能性幹細胞、組織幹細胞、老化研究の最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(4 篠原 久明／3回) 免疫関連疾患と免疫研究の最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(18 伊豫田 拓也／3回) ECM環境を基盤とした疾患研究、放射線とその生体影響にまつわる疾患研究の最新のトピックについて講義する。</p> <p>(7 沖田 直之／3回) 代謝ストレス応答メカニズム研究、代謝疾患に関する基礎・応用研究についての最新のトピックについて講義する。</p> <p>(20 川上 広宣／3回) ゲノム・細胞周期、微生物、遺伝子工学と疾患にまつわる最新のトピックについて講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
薬学部薬学研究科（薬学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	健康科学系薬学特論 (15コマ)	<p>WHOでは、健康について「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（日本WHO協会訳）」と述べている。人が健康を維持するためには適切な栄養を摂取することと生活するために快適な環境、疾患の予防などが必要とされている。本科目は、公衆衛生学を基にした“健康と栄養、又は、環境”についての理解、更に、公衆衛生学、及び、生薬学・漢方、又は、健康情報科学を基にした“疾患と予防”の理解を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2) 緒方 浩二／5回 化合物探索、分子動力学シミュレーション並びに情報科学を用いた創薬委関する化合物探索研究について講義する。</p> <p>(9) 田中 宏幸／5回 生薬・漢方薬の最先端品質評価法、薬用植物の育種研究並びに天然由来機能性成分に関する最先端探索研究について講義する。</p> <p>(8) 立花 研／5回 様々な疾病や薬毒物による生体影響について栄養素、生活習慣、薬毒物、環境要因・遺伝要因など様々な角度から要因や機序を理解し、その予防法や治療法について講義する。</p>	オムニバス方式
	医薬品品質保証特論 (16コマ)	<p>人に医薬品等を使用する際の規制の体系は、医薬品等の投与の目的や投与する物質の違いにより異なっている。本科目では、まず、人に医薬品等を使用する際の規制の体系について学んだ上で、次の2部構成の講義により、その医薬品等の品質を確保するための考え方・手法を学ぶ。これにより、医薬品開発にあたっての品質確保のための視点を養うとともに、実際の医薬品製造時の品質確保に対応できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>医薬品等には、低分子医薬品、生物学的製剤、抗体医薬品、遺伝子治療製品、核酸医薬品、再生医療等製品など様々なモダリティがあるが、医薬品等の品質を確保するために必要な試験、規格、製法管理等は、その特性によって全く異なっている。第1部として、最近注目度の高いバイオ医薬品等に主眼を置き、それらがどのように異なっているのか、また、その根底にある基本的考え方を学ぶ。</p> <p>また、医薬品等を製造する際には、GMPに従った製造管理・品質管理を行うことにより品質を確保する必要がある。第2部として、GMPの位置づけ・基本的考え方、GMPに規定された各項目の具体的な運用等を講義することにより、製造管理・品質管理業務を行うための実用的な知識を学ぶ。</p>	
	医療データサイエンス 特論・演習 (15コマ)	<p>医療現場のIT化に伴い様々な医療データが蓄積されている。これらのデータを解析することにより、データ内に隠れていた新たな情報を見出し、医療の進歩に貢献している。本科目においては、医療データ解析に必要な解析技術を理解し、それらの技術の習得を目的とする。特に、多変量解析、及び、機械学習、深層学習などの統計、及び、データ解析技術を実際の例を交えて説明を行う。更に、実際のデータを解析することによりデータ解析の演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2) 緒方 浩二／7回 医療ビッグデータ解析、テキストマイニング、深層学習について講義する。また、解析実習を行う。</p> <p>(21) 相良 英憲／7回 Rの基礎、多変量解析について講義する。また、解析実習を行う。</p> <p>(2) 緒方 浩二 21 相良 英憲／1回 解析実習で行った課題の結果の発表を行う。</p>	オムニバス方式 共同（一部） 講義 20時間 演習 10時間

授 業 科 目 の 概 要			
薬学部薬学研究科（薬学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	薬学特別演習	<p>自発的な問題意識と研究意欲に基づいて、学生が専攻する専門領域に関連する研究課題を深く掘り下げ、周辺領域を含めた先行研究など高度な薬学の情報やデータを調査・分析して有意義な情報を導き出し、発表しディスカッションすることにより、新たな価値を生み出す資質を身に付ける。専門科目で学んだ専門知識や修得した専門技能、自発的な研究意欲に基づいて、研究分野や研究課題に関連する英語及び日本語の学術論文や課題研究の実験データについて、積極的に調査・解析・総括を行い、ゼミ形式で発表・ディスカッションを行う。</p>	
演習科目	薬学課題研究	<p>研究指導教員の指導を受けながら研究活動に取り組み、課題設定能力と課題解決能力を身に付ける。研究課題に対する解決方法を立案し、計画に基づき調査、実験、分析、検証並びに発表及び議論する能力を身に付け、博士課程で行った研究成果を学位論文にまとめる。</p> <p>学生が配属された専門領域の研究指導教員のもとで、研究指導教員と相談の上で課題研究として独自に研究を行う。課題研究に必要なデータ収集を目的とした実験及びデータ分析・考察・報告書作成・研究総括・論文作成等のデスクワークを行うとともに、定期的な進捗報告のための研究発表会に参加し、学位審査のための論文を作成する。</p> <p>課題研究の進捗と達成状況については、研究指導教員だけでなく複数教員による研究指導委員会が、口頭による中間発表会及び書面による進捗報告書により客観的に評価・検証する。</p> <p>(1 嶋本 顕) 生化学的、分子生物学的、細胞生物学的、免疫学的手法を用いて、再生医療に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(3 牛島 健太郎) 体内時計による細胞ホメオスタシスを利用して、時計遺伝子を基軸とした病態解明および育薬的薬剤学に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 田中 宏幸) 難治性疾患に有効な天然由来活性成分の単離、構造決定、機能評価に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 細井 徹) 生体のストレスに起因する疾患発症機序を生化学・薬理学的手法で明らかにし、新規治療標的・創薬解明に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(13 宮本 和英) 人工的なユビキチンリガーゼを分子設計・作製し、ユビキチン化活性に基づく革新的ながん診断法について研究指導を行う。</p> <p>(16 和田 光弘) 医薬品などの健康影響物質の高感度分析法の開発およびその分析法を用いた生体への影響評価に関わる研究指導を行う。</p> <p>(18 伊豫田 拓也) ECM環境の変化が齎す細胞機能異常を介した加齢性病態形成機序の解明、及びこれを基盤とする治療戦略の創生を課題とした研究の指導を行う。</p> <p>(21 相良 英憲) 精神神経疾患（うつ病、PTSD等）の症状改善に有効な既存薬の探索を研究課題とし、症状改善薬の脳内作用機序に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
薬学部薬学研究科（薬学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	薬学課題研究	<p>(① 稲見 圭子) 臓器特異的な発がん機構を有機化学的な手法を用いて解明し、さらには新規制がん化合物・新規生理活性物質の合成研究について指導を行う。</p> <p>(② 緒方 浩二) 計算機シミュレーションを用いた生命現象の解明や薬物分子設計などに関する研究指導を行う。</p> <p>(③ 小野 浩重) ミュータンス菌による口腔バイオフィルム内のクオラムセンシングの解明及びフッ化物徐放性製剤によるブラーク予防に関する研究指導を行う。</p> <p>(④ 篠原 久明) 免疫細胞の分化機序を分子/細胞/個体レベルで明らかにし、免疫関連疾患制御の新規戦略提示を目指す研究の指導を行う。</p> <p>(⑥ 有海 秀人) 高度化医療や地域医療などの現場で社会のニーズに応え得る薬剤師の実践的な方法論や問題意識について、医療薬学や社会薬学に関する実践研究の指導を行う。</p> <p>(⑦ 沖田 直之) 糖尿病等の代謝性疾患を標的として、成因解明、疾患培養細胞モデル構築、新規治療法開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑧ 立花 研) 環境中の化学物質および微小粒子状物質により生じる健康影響について、その発生机序解明および予防法確立に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑨ 田所 高志) 小型抗体をはじめとする新規バイオ医薬品を分子設計し、物理化学的、生化学的解析による疾患の分子機構の解明および創薬研究の指導を行う。</p> <p>(⑩ 武藤 純平) 機器分析を活用した医薬品・食品・環境汚染物質等の新規分析法の開発と生体への影響評価に関する研究指導を行う。</p>	

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山陽小野田市立山口東京理科大学				山陽小野田市立山口東京理科大学				
工学部				工学部				
機械工学科	60	-	240	機械工学科	60	-	240	
電気工学科	60	-	240	電気工学科	60	-	240	
応用化学科	80	-	320	応用化学科	80	-	320	
数理情報科学科	60	-	240	数理情報科学科	60	-	240	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	120	-	720	薬学科(6年制)	120	-	720	
計	380	-	1,760	計	380	-	1,760	
山陽小野田市立山口東京理科大学大学院				山陽小野田市立山口東京理科大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
工学専攻(M)	15	-	30	工学専攻(M)	15	-	30	
工学専攻(D)	3	-	9	工学専攻(D)	3	-	9	
薬学研究科				薬学研究科				
				研究科の設置(認可申請)				
薬学専攻(4年制D)	<u>5</u>	-	<u>20</u>	薬学専攻(4年制D)	<u>5</u>	-	<u>20</u>	
計	18	-	39	計	<u>23</u>	-	<u>59</u>	